

# A type of youth-onset type1 diabetes mellitus patients by psychological characteristics in the eating behaviors

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Kawamura, Kazumi メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/19468">http://hdl.handle.net/2297/19468</a>

# 博士論文審査結果報告書

学位授与番号 医博甲第 1776 号

学籍番号

氏名 河村 一海

論文審査員

主査(教授) 稲垣 美智子

副査(教授) 泉 キヨ子

副査(教授) 島田 啓子



論文題名 A type of youth-onset type1 diabetes mellitus patients by psychological characteristics in the eating behaviors

論文審査結果

本論文は1型糖尿病患者の心理的問題の中でも食事に関することが与える影響に着目し、食行動に伴う心理的な特徴をもって若年発症型1型糖尿病患者の類型化しそれぞれのケア方法を検討することを目的とした。

研究対象は面接時の年齢が18歳以上の1型糖尿病患者18名であり、心理的な特徴は質的研究手法を用い、類型化には統計解析、双対尺度法を用いた。その結果心理的特長には19の特質が抽出され、類型化では8グループに類型化されそれぞれのケア方法が見出された。心理的特徴は、「高血糖の症状や合併症出現に対する常に存在する顕在的、潜在的不安」「病気でなければなくても良いことに対する面倒くささ」「とにかく食べたい」などの19の特徴であった。また類型化された8グループは「発達段階と関係する普通ではないことに対する思い」と「糖尿病であることでの不安や欲求が満たされないことへの不満」「食事制限に関係する親への依存と自己責任のバランス」に対する程度により説明された。その説明率は31.5%であり説明率として満たされていた。

本論文審査では、若年発症した1型糖尿病患者の食事に関する心理状態について明らかにした研究はこれまでに無く、その特徴から患者の特徴を類型化した研究も無い。独自性の高いものとして評価されました。また、本研究は、患者のケア開発に重要な結果として位置づけられ、患者のQOLの向上に貢献するものである。さらに糖尿病患者の心理の解明としての意義も大きく、本研究で用いられた研究手法も適切かつ独創的で、今後のケア技術の開発に活用できることを示した点も高く評価された。

公開審査では、質的研究に民族看護学を用いた理由、双対尺度法によって得られた結果の解釈についての質問がなされた。質問に対する答えの内容と態度、さらに研究者としての見解とも適切であった。またプレゼンテーションについても十分吟味された内容であった。

以上提出された、論文および公開審査における態度と知識、見識等を総合し博士(保健学)合格と判定した。